

**次期総合計画・都市計画マスタープラン
上溝地区まちづくり会議報告書**

平成30年9月
上溝地区まちづくり会議

目 次

(課題と対応方策)

- 1 【重点】都市計画・都市整備・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
- 2 道路・交通・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2
- 3 住環境・生活環境・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2
- 4 自然・環境・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
- 5 【重点】産業・観光・商店街・・・・・・・・ P 4
- 6 安全・安心・・・・・・・・ P 4
- 7 健康・医療・福祉・・・・・・・・ P 5
- 8 教育・子育て・・・・・・・・ P 6
- 9 生涯学習・文化・スポーツ・・・・・・・・ P 7
- 10 地域コミュニティ・・・・・・・・ P 8

(付属資料)

- 会議経過・・・・・・・・ P 9



1 【重点】都市計画・都市整備

現状と課題

平成28年の交通政策審議会の答申において、唐木田駅から上溝駅までの小田急多摩線の延伸が「地域の成長に応じた鉄道ネットワークの充実に資するプロジェクト」として位置づけられたことから、上溝地区では一日も早い延伸の実現に向け、平成29年に「小田急多摩線延伸・上溝駅開設推進協議会」が設立され、地区住民が一体となった推進活動が行われています。

延伸が実現することにより、交通利便性の向上やまちの賑わいの創出が期待されますが、上溝駅周辺は、交差点の形状等が要因となって道路が慢性的に渋滞しており、駐車スペースも少ないなど“まちの拠点”としての機能に課題があります。

また、番田駅は駅舎が改修され、現在は自転車駐車場の再整備が行われているものの、駅への進入経路となる道路が狭いなど、公共交通の乗り入れが困難な状況が続いています。

あわせて、JR相模線が未だ単線であり、鉄道のメリットを活かしきれていないことも大きな課題です。

対応方策

小田急多摩線の上溝駅までの延伸と、JR相模線の複線化や行き違い施設の整備による輸送力の増強を実現する。(行政・事業者)

幹線道路の整備や交差点改良、上溝駅の駅ビル化、駅前広場の再整備など、駅及び駅周辺の再整備を行うことにより“まちの拠点”としての機能向上を図る。(行政・事業者)

- ・上溝駅周辺には駐車スペースが少ないことから、道路敷地を活用した駐車スペースの確保や駅周辺への立体駐車場の整備により、駅利用者の利便性向上を図る。(行政・事業者)
- ・番田駅周辺の道路の拡幅や駅前広場の整備等により、公共交通の乗り入れが可能な環境をつくる。(行政・事業者)

2 道路・交通

現状と課題

上溝駅周辺で慢性的に発生している道路渋滞を解消するとともに、小田急多摩線の延伸実現に向けた“まちの拠点”としての機能向上を図る必要があります。

また、地区内には狭あい道路が多いことから、安全に通行できる道路環境を整備し、子どもや高齢者をはじめとする地区住民の安全を確保することが求められています。

あわせて、高齢化の進行に伴い、多くの高齢者が自家用車を運転することが難しくなることが想定されることから、公共交通の利便性の向上や高齢者が気軽に外出できるような環境づくりが求められています。

対応方策

- ・上溝中坂下交差点や上溝本町交差点での渋滞を解消するため、上溝駅からちとせ橋方面への幹線道路の整備や、渋滞ポイントとなる交差点の改良を行う。(行政・事業者)
- ・安全に通行できる道路環境を確保するため、狭あい道路の拡幅や交通安全施設の設置による適正な管理などの取組を進める。(行政)
- ・高齢者等の移動制約者の移動手段を確保するため、コミュニティバスや乗合タクシー、送迎車両の導入を検討する。(市民・行政・事業者)
- ・高齢者の徒歩での外出を促すため、休憩をとることができるベンチを歩道上に設置する。(市民・行政)
- ・駅から目的地までのレンタサイクルを導入するなど、自転車利用を促進し、交通利便性の向上を図る。(行政・事業者)

3 住環境・生活環境

現状と課題

家庭ごみの出し方が悪く、鳥獣類によるごみの散乱を招くなど、ごみ・資源集積場所の衛生管理が課題となっています。

また、空家が増加し、防犯上の問題が生じることが懸念されています。

対応方策

- ・家庭ごみの戸別収集等の検討を行う。(行政)
- ・家庭ごみの出し方のマナーを遵守させる取組を行う。(市民・行政)
- ・空家の活用を含めた空家対策の検討を行う。(市民・行政)

4 自然・環境

現状と課題

上溝地区は、鳩川、姥川、道保川の3つの河川が流れるとともに横山丘陵緑地があり、自然に恵まれた地域といえます。

この自然環境を活かした道保川公園や「てるて姫の里ロマン探訪の小路」は、地域住民の憩いの場となっていますが、散策する際に足元が不安定であったり、全体が暗く感じられるなど、安心して利用するためのさらなる環境整備が求められています。特に、道保川公園はホタルが鑑賞できる公園であり、また、上溝さくら公園は多種の桜が植栽されていることから、地域の誇れる公園として大切にしていく必要があります。

地区内の河川に関しては、水質の改善はみられるものの魚が少ないなど、子どもをはじめとする地域住民がさらに親しむことができる環境づくりが求められています。

農業の分野では、高齢化の進行に伴う後継者不足により、遊休農地が増加しています。

対応方策

- ・道保川公園を地域の誇れる公園として維持していくため、ホタルの繁殖及び生息環境の保全活動や園路の改良に取り組む。(市民・行政・事業者)
- ・横山丘陵緑地内の「てるて姫の里ロマン探訪の小路」について、看板の設置や歩道の整備、緑地内を明るくするなどの環境整備により、これまで以上に安心して利用できるようにする。(市民・行政)
- ・上溝さくら公園は、桜の名所として市のセールスポイントとなるような公園として整備する。(市民・行政)
- ・河川では、魚が育つ環境づくりや親水広場・遊歩道の整備を行う。(行政)
- ・市民農園や教育現場での活用等、遊休農地を有効利用する。(行政)

5 【重点】産業・観光・商店街

現状と課題

上溝地区は商業の中心地として栄えていましたが、他地区に大型商業施設が増えたことなどから、現在は商店街の集客力を向上させる取組が求められています。

また、都市化が進む中で、地区内の南部の地域には農地が広がっており、引き続き近郊農業の振興を推進していく必要があります。

対応方策

停車場所や車両の大きさを工夫したコミュニティバスや乗合タクシー、送迎車両などを導入し、上溝駅と商業施設、居住地区や他地区をつなぐ。(市民・行政・事業者)

大型商業施設や道の駅を誘致し、商店街と連携を深め、地域活性化を図る。(行政・事業者)

- ・既存駐車場の立体化や空地への駐車場整備により、駐車可能台数を増やし、集客力の向上を図る。(事業者)
- ・空き店舗や既存の店舗内の空きスペースを趣味の発表や団らんの場として活用し、商店街をコミュニティ形成の場とする。(市民・行政・事業者)
- ・近郊農業の振興及び地産地消を推進する。(市民・行政)

6 安全・安心

現状と課題

防犯灯がLED化され、夜間の道路が明るくなりましたが、依然として空き巣や自転車の盗難等の犯罪が多く発生しています。

また、上溝地区には、鳩川、姥川、道保川の3つの河川がありますが、集中豪雨等による河川の増水や氾濫による被害が心配されることから、水害に備えた防災対策も急務となっています。

対応方策

- ・自治会加入者を増やし、犯罪に強いまちづくりに取り組む。(市民・行政)
- ・二重ロックの徹底など、自衛措置を促す取組を進める。(市民・行政)
- ・犯罪防止の観点から防犯カメラの設置を推進する。(市民・行政)
- ・防火対策として火災報知器の設置及び管理の徹底を促す。(市民・行政)
- ・河川の水位注意監視警報システムを構築する。(行政)
- ・川底の整備(中洲の樹木伐採や砂利の撤去)を年に1回は実施する。(行政)
- ・側溝、排水溝等の適正な維持管理を行う。(行政)

7 健康・医療・福祉

現状と課題

地区内には日常の移動手段としてのバス路線がない、又は便数が少ない地域があり、高齢者等の通院や買い物などに不便が生じています。

また、高齢化の進行に伴い、高齢者の居場所づくりに引き続き取り組む必要があります。

さらに、少子高齢化に伴う医療ニーズの増加や多様化に対応できる地域医療の充実が求められています。

対応方策

- ・コミュニティバスや病院の送迎バス、乗合タクシー、送迎車両等の導入により、高齢者等の移動制約者の移動手段を確保する。(市民・行政・事業者)
- ・「ぶらっと上溝」などの、高齢者の居場所の充実を図る。(市民・行政・事業者)
- ・地域住民が身近で安心して受診できる医療体制を構築する。(行政・事業者)

8 教育・子育て

現状と課題

地区内には子どもの遊び場が少なく、また、公園の利用方法や放課後の外出に制限があることから、身近な場所で子どもが楽しく遊べる環境をつくることが求められています。

また、全国学力・学習状況の調査結果などから、市内の小・中学生の学力向上を図る必要がありますが、学校施設の学習環境や、学習に利用できる公共スペースが少ないなどの課題があります。

さらに、共働き家庭や核家族が増えていることなどを背景に、子育てを地域全体で支える仕組みづくりも必要です。

対応方策

- ・身近な場所に公園等の広場を整備する。(市民・行政)
- ・校則などにより、学区外にある公民館やこどもセンター等の公共施設へ遊びに行くことができない子どもがいるため、小学校高学年の集団であれば学区外への外出を許可するなどの見直しを検討する。(市民・行政)
- ・子どもの学習環境や災害時の避難所としての機能に課題があるため、学校の体育館へのエアコン設置を推進する。(行政)
- ・学習に利用できる公共スペースを拡充するため、既存の公共施設の空き部屋等を活用した学習室を設ける。(行政)
- ・子どもの学力の底上げを図るため、無料で利用できるIT機器の設置を推進し、「ラインズe-ライブラリ」などの既存のオンライン学習システムを利用できる環境を整備する。(行政)
- ・保育所や児童クラブの開設時間を延長する。(行政・事業者)
- ・こどもセンターには駐車場がなく、乳幼児とその保護者が自家用車を利用して事業に参加することができないため、駐車場の整備や公共交通で通える環境づくりを進める。(行政・事業者)
- ・3世代交流事業を推進し、地域と子育ての連携を図る。(市民・行政)
- ・上溝駅周辺には多くの学習塾があり、自家用車による子どもの送迎が多いため、日中は高齢者等の移動手段として、夕方からは子どもの通塾手段として機能するコミュニティバス等の運行を検討する。(市民・行政・事業者)

- ・学習支援などのボランティア活動に興味がある方を対象とした講座などを開催し、担い手の確保と質の向上を図る。(市民・行政)
- ・地域の課題等を共有するため、学校連携を進める。(市民・行政)

9 生涯学習・文化・スポーツ

現状と課題

上溝地区は、「上溝夏祭り」に代表される歴史と文化のあるまちです。この歴史や文化、地域が生んだ偉人の功績などを伝承し、発展させ、広く発信することで、地域への愛着の増進や活性化につなげる必要があります。また、社会教育施設である公民館は、今後増え続ける高齢者の活動の場としても機能の充実が求められています。さらに、広場等が宅地化の進行により減少していることも課題です。

対応方策

- ・上溝夏祭りや上溝の歴史・文化に関する資料を展示する施設を整備して広く発信する。(市民・行政・事業者)
- ・JR相模線の車内にポスターを掲示するなど、新たな手法で上溝夏祭りのPRを行う。(市民・行政・事業者)
- ・来場者の利便性の向上を図るため、上溝夏祭り用の駐車場や駐輪場を確保する。(市民・行政・事業者)
- ・上溝夏祭りの活性化のため、栈敷席を作り、祭りを盛り上げるとともに有料化することで事業費の充実を図る。(市民・行政)
- ・地域の歴史的偉人の調査を行い、広く発信していく。(市民)
- ・地域の社会教育活動を活性化するため、公民館の常勤職員の増員や社会教育主事の配置を進める。(行政)
- ・公民館の施設の老朽化に対応するため、建替えなどによる施設環境の充実を図る。(行政)
- ・身近な場所に、運動ができる広場等を整備する。(市民・行政)
- ・小中学校の校庭の夜間開放ができるよう、照明設備を整備する。(行政)

10 地域コミュニティ

現状と課題

地区内の自治会では、加入に伴う負担感や近所付き合いの希薄化などが要因となって加入率が低下しています。

また、人と人が集い、交流する場所を創出するなど、地域活動のさらなる活性化を図り、地域コミュニティの形成を進めることが求められています。

対応方策

- ・自治会への加入を促進するため、世帯の状況に応じた会費の減額措置の検討や、会員同士がふれあえるイベントの企画・開催など、負担相応のメリットを感じてもらえる取組を進める。(市民)
- ・加齢により役員を務めることが困難になり、自治会を退会する事例も見られるため、高齢会員の負担軽減や若い世代の参画を促す取組を進める。(市民)
- ・防災訓練などの定例的な事業についても、毎年改善を図り、参加者が関心を持つように実施方法を工夫する。(市民)
- ・空き店舗や既存の店舗内の空きスペースを趣味の発表や団らんの場として活用し、商店街をコミュニティ形成の場とする。(市民・行政・事業者)



(付 属 資 料)

会 議 経 過

日 程	会 議 内 容	委員出席数
平成30年 5月29日	第1回 ・地域の課題(良くなった・悪くなった点)の抽出	20名
6月12日	第2回 ・課題と対応方策検討	20名
8月 7日	第3回 ・課題と対応方策検討	20名
9月11日	第4回 ・報告書のとりまとめ、重点項目の検討	19名

